

# 林修先生と学ぶ「国消国産」講座

日本の食料自給率は  
わずか38%\*

いざという時に困らないために

\*カロリーベース 2019年 農林水産省による

なぜ今?  
国消国産

日本の食料自給率は  
先進国の中でも最低水準

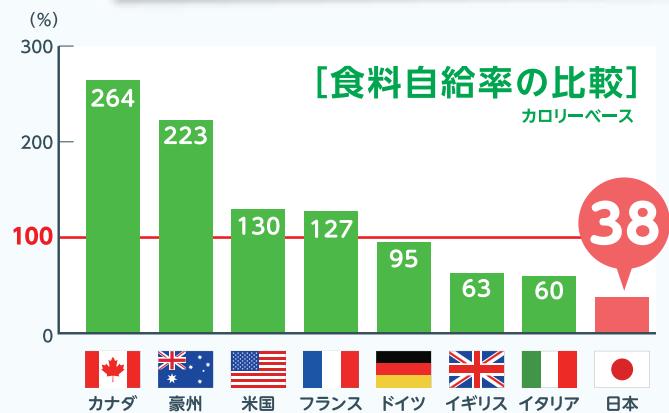
コロナ禍でマスク不足が社会問題になり、国民生活に大きな影響を与えました。これがもし食料だったらどうでしょうか？そこで気になるのが、食料自給率です。こちらのグラフをご覧ください。日本は他の先進国と比べて、とても低いことがわかります。日本は今、食料の約6割を輸入に頼っているのです。

食料自給率の低迷は  
日本の「食」にとって  
大きなりisk

農地を耕し、自然と調和しながら、長い年月をかけて育まれる農畜産物は、不足したからといってすぐに作れるわけではありません。このまま食料を輸入に頼り続けることには、大きなりiskがあると言わざるをえません。実際に、新型コロナウイルスの影響で、約20か国が食料の輸出を規制したのです。これらの国々から多くの食料を輸入していた場合、国民の食生活に多大な影響が出たと考えられます。そのようなリスクを回避するためにも、食料自給率の向上は喫緊の課題といえるでしょう。



JAグループサポーター・林修



出典: 農林水産省(諸外国は2013年の数字、日本は2019年の数字を使用)

だから今!  
国消国産

「国消国産」で  
日本の食料自給率の向上を

農林水産省は、2030年度までに食料自給率45%(カロリーベース)を目指しています。その実現には、「國民が必要とし「消費する食料は、できるだけその「國」で生「產」する」という「国消国産」をみんなですすめ、国産の農畜産物を食べて・飲んで・飾って・応援して、国内農業を後押ししていく必要があります。「国消国産」の推進は、食料自給率の向上という、私たちが生きていくために一番大切な「食」の安心につながっていきます。



- ① 日本の食料自給率は、わずか38%
- ② 食料を輸入に頼ることは、いざという時のリスクに
- ③ 「国消国産」で、食料自給率の向上を